

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW一す NO.26

2016.7

## 患者さん向けの乳がん診療ガイドライン



乳がんの標準治療とガイドラインについては以前にも、この乳がん高度検診・治療センターNEW一す No.9 (2014年8月刊行) で取り上げました。ただ、標準治療の「標準」を上・中・下の中ランクという意味に取り違えておられる方がまだ少なくありませんので、今回ふたたび解説を加えます。標準治療とは、多くの臨床試験の結果をもとに、日本乳癌学会という学会主導で乳がんの専門家が集まって検討し、現時点で最善との合意が得られた治療法のことです。

一昔前まで乳がんを含めたがん治療は、担当する医師の裁量に委ねられていました。すなわち、先輩から教わった治療法にならう、大家の意見に従う、自分自身の経験を最優先する、などがまかり通っていました。結果として、治療方針は病院間や医師間で微妙に異なっていました。



こうした非科学性を是正すべく、20年ほど前から科学的根拠に基づく医療（エビデンス・ベースト・メディシン）ということが言われだし、医療の各領域で科学的根拠に基づく治療の標準化がなされ、ガイドラインづくりが盛んとなりました。なかでも乳がんについては他領域に先駆けて、医師向けあるいは患者さん向けのガイドラインが日本乳癌学会の公的な刊行物として刊行されています。現在ではそれぞれが2年ごとに改訂されており、毎年交互に出版されています。

医師向けのガイドラインは2004年の初版以来数回改訂されており、現在のものは2015年版です。このガイドラインのお蔭で、乳腺専門医の在籍する病院であれば治療内容の格差は急速に縮まり、医療の均てん化（どこでも同一レベルの治療が受けられること）に弾みがつきました。

一方、患者さん向けのガイドラインは、初版は2006年版で、患者さんやそのご家族が知りたいことについて正確な情報をわかりやすく解説したものです。あくまで患者さんの目線での素朴な疑問に対する指針とすべく乳がん患者会の方も作成委員に加わっていただいています。この患者さん向けのガイドラインは、ごく最近改訂されたばかりで、「患者さんのための乳がん診療ガイドライン2016年版」として金原出版（東京）から発売されています。大手の書店で購入可能ですし、また日本乳癌学会のwebサイト(<http://www.jbcs.gr.jp/guideline/>)からも閲覧可能です。ただし、webで公開している患者さん向けガイドラインは今の時点（2016年7月）では2014年版です。実は、医師向けガイドライン（2015年版）も一般の方がこのwebサイトから閲覧することができます。ただし、こちらは専門用語も出てきますし、一般の方には難解と思われるので、やはり患者さん向けガイドラインにより情報収集されるのがお勧めです。

もちろん、例えば再発後の治療など、個々の患者さんで置かれた状況は違いますし、それぞれの人生観や価値観によって、最終的にどの治療を選択するかが決定されますので、ガイドラインはいわば手すりのようなものと考えていただければよいでしょう。

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

さらに詳しいことやお知りになりたいことがありましたら、乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。